

ふたせ 二瀬ダム

あら りゅういき
～荒川流域で最初につくられたダム～

こうすい
洪水調節、かんがい用水の確保、発電、といった
3つの事業目的を持った多目的ダムです。



ふたせ
二瀬ダム



おくちちふもみじ
奥秩父紅葉祭り期間中のライトアップ



ふたせ
二瀬ダム内部

事業目的

1947（昭和22）年のカスリーン台風による計画高水流量を上回る出水の経験をふまえ、1950（昭和25）年に「荒川総合開発計画」が立てられ、埼玉県及び東京都の水害に備えることとなりました。この荒川総合計画の中心事業が二瀬ダムの建設です。二瀬ダムの事業目的は以下の3つです。

洪水調節	ダム地点の計画高水流量毎秒1,500 m ³ のうち700m ³ をダムで調節し、ダム下流域の洪水被害の軽減をはかります。
かんがい用水の確保	4月26日から9月20日までのかんがい時期においては、下流の熊谷付近の大里、元荒川地区4,378ha及び、櫛引、本畠地区4,255ha、合計8,603haのかんがい用水を確保します。
発電	ダムからの放流水を利用して埼玉県が最大出力5,200kWの発電を行います。

▶ 二瀬ダム（秩父湖）とは

二瀬ダムは荒川上流の支流、入川と大洞川の合流部にある重力式アーチコンクリートダムです。堤高95m、総貯水量2690万㎡で、最大5200kW/hの発電を行うことができます。1952（昭和27）年度に実施調査を開始、1958（昭和33）年本体のコンクリート打設が開始され、1961（昭和36）年12月に完成しました。秩父湖は二瀬ダムによってできた人造湖です。秩父湖の名前は、この地にゆかりの深い秩父宮妃殿下によって1962（昭和37）年に命名されました。

周囲を奥秩父の連山が囲み、新緑の頃はエメラルドグリーンが湖水に映えます。周囲には桜が植えられており、花見ポイントとしても知られています。ダム完成から30年近くを経て、堆砂も進んだことから、1989（平成元）年にはダムの貯水池の機能維持を目的とした貯砂ダムの、二瀬ダム貯水池上流端に設置しています。

所在地：秩父市	堤高：95.0m
ダム形式：重力式アーチコンクリートダム	堤頂長：288.5m
完成：昭和36年	堤体積：35.6万㎡
総貯水容量：2690万㎡	事業者：国土交通省

ダム諸元

▶ ログハウスプロジェクト

2007（平成19）年5月27日に「荒川源流でログハウスを造ろうプロジェクト」がスタートしてから約半年間、11月18日に「荒川ふれあいログハウス」が完成しました。

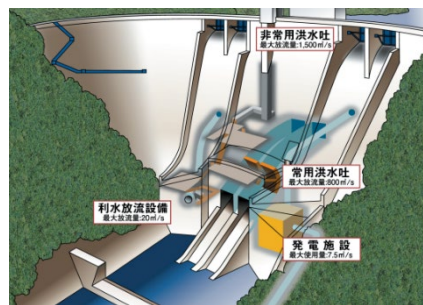
このプロジェクトは、自然豊かな荒川の魅力を再認識し、荒川の文化の発展への貢献の一環として、地元・大滝のNPO団体（NPO・森、NPO・大滝）と国土交通省二瀬ダム管理所による協働プロジェクトです。上中下流域の一般の方々からボランティアを募り、毎回（計19回）、地元NPO・講師の指導のもとで、参加ボランティア（計11名）およびスタッフによりログハウスを造りました。



荒川ふれあいログハウス

コラム 二瀬ダムに今も息づく「昭和の技術」

1961（昭和36）年に完成した二瀬ダムには、あの「戦艦大和」を建造した呉海軍工廠の流れを汲む（株）呉造船所の技術が今も生きています。巨大なコンジットゲート（常用洪水吐）、船のハッチのような扉、機械式の計器類など当時の製造品が持つ重厚な雰囲気に残っています。また、ダム内の通路の壁や天井には、合板の型枠にはない木目や釘の跡がくっきりと残されています。



ダムの内部設備



圧着計



鉄蓋



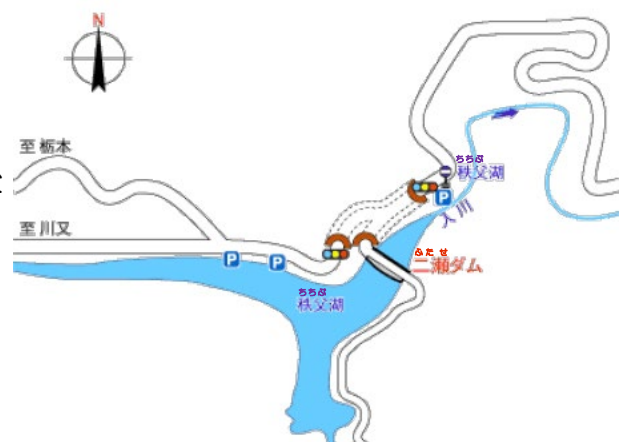
鉄扉

アクセス

二瀬ダム（秩父湖）

交通：秩父鉄道「三峰口駅」より、西武観光バス「秩父湖」行きで「秩父湖」下車駐車場あり

住所：埼玉県秩父市大滝



二瀬ダム（秩父湖）